

幼稚園の養護教諭に関するニーズ調査

平成16年度 「健やか親子21の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究」
松浦賢長分担班 学校保健・幼稚園養護教諭研究班

問1. 回答して下さるあなた自身についてお伺いします。当てはまる数字や当てはまるものに○印
1つをつけてください。

- A. 年齢 () 歳
- B. あなたは、子どもさんの・・・ 母親・父親・祖母・祖父・その他 ()
- C. 今回、健診に来られたお子さんは、() 人きょうだいの () 番目の子どもです。

問2. 今回、健診に来られたお子さんを幼稚園に通わせることを考えていますか。○印を1つつけて
ください。

- 1. できれば幼稚園に入れたい
- 2. できれば保育園・保育所に入れたい
- 3. どちらにも入れたくはない(家にいればよい)
- 4. まだ考えたことがない

問3. 幼稚園に養護教諭(保健室の先生)が配置されている幼稚園があることをご存知ですか。

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問4. 子どもさんの幼稚園入園について考えるとき、養護教諭(保健室の先生)が配置されている方
がいいと思いますか。当てはまるものに○印を1つつけてください。

- 1. 絶対、養護教諭が配置されている方がいいと思う
- 2. できるなら、養護教諭が配置されている方がいいと思う
- 3. 養護教諭の配置の有無についてはとくにこだわらない

問5. 幼稚園の養護教諭(保健室の先生)にとくにどのようなことを期待しますか。一番期待するも
のに、1つだけ○印をつけてください。

- 1. けがや病気の時の応急処置をしてもらう
- 2. 最新の子どもの健康の情報を提供してもらう
- 3. 子ども健康について相談にのってもらう
- 4. 地域の保健センターや医療機関との関係(人と人のつながり)があり、子どもの健康を支援
してもらう
- 5. 保護者の育児不安の相談にのってもらい子育て支援をってもらう
- 6. その他()

問6. 現在、3歳児健診の内容を地域の保健センターから幼稚園に伝達するということは行なわれて
いません。3歳児健診の内容を地域の保健センターから幼稚園に伝達し、引き続き子どもの健
康支援を行なうために有効活用してほしいと思いますか。当てはまるものに○印を1つつけて
ください。

- 1. プライバシーに配慮した上で、してほしい
- 2. プライバシーに関わることなので、できればしてほしくない
- 3. その他()

アンケートへのご協力ありがとうございました。

周産期から就学期へと繋がる専門家の関係に関する研究

山野 恵美子	奈良文化女子短期大学
山口 智佳子	奈良教育大学附属幼稚園
小松原かおり	京都教育大学附属幼稚園
安 田 梓	大阪市立幼稚園
下園 美保子	奈良県吉野郡下市町保健センター
松浦 賢長	福岡県立大学看護学部地域・国際看護学講座
山縣 然太郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部

子どもたちの心身を健やかなものとするために、小児の健康に関わる保健、医療、福祉、教育の各分野の確実な関係による、母子保健対策の推進が図られることが求められている。子どもの健康に関わる様々な職種の関係にあたっては、子どもを見る視点や価値観の違い、相互理解の不足、システムの確立が充分でないなどが阻害因子として示唆されている。そこで今回、子どもの健康における関係の実態や現場が抱える問題および意見、各専門職者の子どもを見る視点の相違を把握することを目的にアンケート調査を実施した。結果：①回答者の9割以上は何らかの形で関係を経験していた。しかし、医療にかかわる職種や施設において関係に関する意識が低かった。②関係で共有している内容は、子どもとそれを取り巻く環境についての情報であった。③気になる子がいる時や問題発生時に関係しており、定期的な関係の実施は約1割であった。④関係するには人と人とのつながりを考慮したものだけでなく、文書が必要とされていた。⑤関係している職種や今後関係したい職場は、あらゆる職種や職場が選択されていた。⑥関係の主体となる人は管理職が約3割を占め、保健師では約8割が担当保健師となっていた。⑦気になる子は職種による視点や意見により若干の相違はあったが、対象の生活すべてを捉え考えていた。⑧妊娠期から就学期までに関連する専門家の関係の意識には、情報を「受け取る」「取り渡す」という視点の両方をもっている場合がほとんど見られなかった。

これらの結果から、定期的で確実な関係がとられているところが少なく、関係がとられていても何らかの課題を持っていることがわかり、関係のモデルの推進や関係システム構築や介入体制の確立が急務であることが示唆された。

I. 研究目的

「人と人とのつながりの度合い（関係）によって何かを一緒にしよう、協同して何かをしよう（連携）という可能性が高まる」という仮説のもと、妊娠・出産から就学期の子どもの保健、医療、福祉、教育に携わる専門職者の「子どもの健康における関係」についての捉え方や取り組みの現状を把握する。

II. 用語の定義

関係＝人と人とのつながり

連携＝協同して何かを一緒に行うこと

III. 研究方法

1) 調査期間および調査対象

2004年11月1日に、自記式質問紙および研修会

案内を、奈良県内の全小学校、全幼稚園、全保育所（園）、全産科・小児科診療所および病院、全開業助産所等、全保健センター・市役所・役場、保健所の合計705施設に郵送し、12月末までに返信のあったものを今回の研究対象としている。

2) 調査内容および分析方法

今回の研究にあたり、当研究班は独自に自記式質問紙を作成した（別紙）。内容は関係の有無や必要性、関係の実施内容・状況・方法・関係先、関係の責任者等、関係の現状や今後の課題に関する9項目、および実際の現場での「気になる子ども」について自由記載を含めた3項目の合計12項目である。また、設問により複数回答を取り入れ広く意見を求めた。分析はSPSS 11.0 J for

Windowsを用い、職種ごとのクロス集計を行った。

IV. 結果および考察

1) 回収状況

小学校240施設中91施設、幼稚園169施設中74施設、保育所（園）161施設中61施設、産科・小児科診療所および病院71施設中17施設、開業助産所等13施設中8施設、保健センター・市役所・役場等45施設中29施設、保健所6施設中6施設、発送先合計705施設中294施設（回収率41.7%）である（表1）。

2) 回答者の属性について

回答者の性別は女性が276人（94.2%）、男性が17人（5.8%）であった。

年齢構成は、50歳代が131人（44.9%）と最も多く、次いで40歳代が92人（31.5%）と、2つの年代で7割以上を占めていた。職種別でみると、多くは50歳代～40歳代で7～9割を占めていた。しかし、保健師のみは30歳代が最も多く、20歳代～30歳代が6割以上を占め、特徴的であるといえる（表2）。

職種・職場別にみると、小学校・幼稚園・保育所からの回答は7割を占め、発送数の多い教育機関からの意見が多く寄せられた。また、施設別回収率では保健所・保健センターの順に高く、行政・保健関係は約6割の回答が得られた。医療関係職種では助産所や開業助産師は約6割を占めていたが、病院・診療所が約3割と最も低かった。

今回の結果から、教育機関や行政、子どもの保健に関わる職種や施設の意識の高さが伺えたが、逆に子どもの医療にかかわる医療関係職種や施設の意識の低さが明らかになった（表1、表3）。

3) 関係について

今までの他職種との関係について聞いたところ、「関係がある」263人（91.8%）、「関係がない」24人（8.2%）と、9割以上が何らかの形で他職種と関係があった。

関係を通し共有している内容では、「子どもの成長・発達について」204人（25.7%）、「気になる子ども（とその親）について」186人（23.5%）であり、職種別にみても関係している内容の順に大きな相違はなく、子どもとその親に関する内容が約半数を占めていた。このことから子どもや親、子どもの家庭環境といった、子ども

を中心にそれを取り巻く環境や情報を共有していることがわかった（図4）。また、その他の内容では学校生活、これらすべてを含む育児、虐待、行事、保健事業、食育などがあげられていた。

関係の実施状況を聞いたところ、「随時や不定期に実施」184人（21.4%）、次いで「気になる子どもがいるとき」154人（17.9%）、「問題が起こったとき」119人（13.9%）など、何かが起こってしまってから関係しているところが約3割を占めていた。逆に、「定期的に実施」しているところは68人（7.9%）であった（表5）。定期的な実施の状況は、1ヵ月に1回が一番多く、次いで1～3ヵ月に1回、1年に3回、1ヵ月に1～3回の順に多く、定期的に連携があるところでは、頻回かつ継続的な取り組みが考慮されていた。以上の結果から、定期的な実施は1割以下であり、予防的な視点で関係しているところは少なく、職場内や自分たちだけで解決していたり、事態が起こり困った時に、問題解決を目的とした連携がある現状が窺えた。

関係の実施方法は、「担当者が会い口頭」160人（37.5%）が最も多く、次いで「担当者の口頭と文書」105人（24.6%）、「担当者会議と文書」70人（16.4%）に順に情報の伝達や関係があった。また、担当者同士の関係に加え、何らかの形で文書が必要とされていることがわかる（表6）。その他の回答には、「直接子どもの様子を見てもらう」「会う時に保護者も交えて会う」「方法はその時による」など、現状を理解してもらおうと共に、対象とのかかわりが考慮されていた。他の意見には「講義、学習会、研修会、懇談会」などが挙げられており、連携についての意識や行動の差が伺えた。また、これら意識の違いを考慮した研修会の実施等は、連携への取り組みの動機づけとなったり、連携を推進するための方法論習得の機会となり、介入手段の大切な一つとなるのではないかと思われた。

関係がある職種では、医師が最も多く、次いで保健師、その他の教諭、保育士、栄養士、臨床心理士の順に多く、乳幼児期における健やかな子どもの成長・発達になくてはならない職種が関係の中心を担っていた（表7）。また、職種別にみると、対象とする子どもの年齢により関係している職種に変化がみられた。これは子どもの健康状態や成長による内容の変化や、状況の優先度に合わ

せ連係する職種を選択しているためだと思われる。

職場内で連係の主体となっている職種では、「園長や校長」が142人（26.8%）となり、次いで担任、主任、養護教諭であった。保育園をはじめ学校関係では子どもと直接にかかわり、問題を把握している担任や養護教諭ではなく、園長・校長・主任といった管理職が連係の中心となっていた。しかし、保健師や助産師では担当者自身が連係を担っていた（表8）。また、その他では医師や発達相談員といった専門職種、教頭や人権教育推進教諭、相談部担当教諭や幼少連携担当者などが挙げられており、特に学校現場では担任だけではなく、連係するための担当や窓口が明確にされていることがわかった。これは連携することに伴う判断や責任の所在、継続性が考慮されているためと思われる。反面、学校現場との連携では、学校により責任者が異なったり、多くの関係者が存在するために管理職や担当責任者の役割や機能が発揮されずに連係が複雑かつ煩雑になり、子どもや親へのアプローチが遅れてしまうことが懸念される。

連係の必要性についてみると、「連係の必要性を感じ体制を整えたい」100人（40.7%）が最も多く、次いで「連係があればいいと思うが、ないことで今困ることはない」31人（12.6%）であった（表9）。また、その他の意見では、「連係が整えられ満足」、「連係作りの途中である」「課題解決や体制の強化を図っている」など、連係状況や問題はさまざまであるが、連係の必要性を感じていた。しかし、「必要性を感じない」「連係したい先に必要性を感じてもらえない」というように、連係に消極的な意見もあった。

このことから連係や体制について意識しているところが多く、連係モデルやシステム構築のための手段や方法を明確に示すことが必要であると思われる。

今後連係したい職種では（表10）、「臨床心理士」186人（17.6%）、「医師」172人（16.3%）が多く、いずれも高い専門性で受診行動を必要とするものである。子どもの疾患や病態、心理状態といった専門的判断・診断を担い、現在困っていることの原因や原点を理解した上で次への方向性を明確にすることができるためと思われ、他者との連係とは別の意義を含んでいるといえる。また「医師」は、連携がある職種や連係をしたい職種

であるが、今回の調査では回収率が低く、今後意識を高めるようなかかわりが必要である。次に保健師・栄養士・養護教諭が多く、他の職種についても大きな差はなく、均一的に連係を希望していることがわかる。

その他に挙げられた職種には、子ども家庭相談センター職員、同カウンセラー、弁護士、歯科衛生士、福祉事務所、警察官、民生委員、地域住民など、子どもの健康や成長・発達のみにかかわる専門職だけではなく、多岐に渡っていることがわかる。

連係をとりたい職場では（表11）、「児童相談所」が199人（15.6%）と最も多く、これは発達心理相談など、子どもの療育の要であるとともに、社会問題でもある子どもの虐待などにおいても重要な役割を持つ機関であることが要因であると思われる。次いで小学校、保健センター、保育園、病院など、乳幼児期における健やかな子どもの成長・発達から就学までに、なくてはならない職場が均一的に選択されていた。このことから、どの機関が連係の中心でもなく、子どもにかかわるすべての環境が、連係には必要で重要な役割を果たしているといえる。すなわち、一方だけが「連係や情報」を“必要とする”のではなく、“必要とされる立場”にあることの自覚が重要である。

4) 気になる子について

気になる子について優先度の高い3項目を選んでもらった結果では、「遊べない・遊ばない・他児と一緒に遊べない」「生活リズムが乱れている」、「言葉の遅れ・言葉が不明瞭」が多く、この3項目で約半数弱を占めていた（表12）。また、職種別にみると、対象とする子の発達段階や、働く場所の特徴によって割合に若干の変動はみられるが、選択している気になる子の内容に大きな差はなく、全てのことを気にして捉えていた。その他の内容では、不登校、母子関係、母子分離不安、基本的な生活習慣、親の生活や価値観などをはじめ、子どもと親の両者に目が向けられていることがわかった。このことは“問題点”の解決のためだけでなく、多くの観点から対象の生活すべてを捉え、考えようとしている姿勢を、改めて確認できるものではないかと思われる。

5) 連係・気になる子への自由意見

回答者からの自由意見を聞いたところ、「助産師」13人、「保健師」16人、「保育園看護師」5人、「小学校教諭」6人、「小学校養護教諭」37人、「幼稚園教諭」38人、「保育士」32人、その他「園長・所長」9人の合計156人の意見を聞くことができた（表13に一部を抜粋）。それぞれの意見は大まかに分類すると、関係・連携の事例や実体験からの意見、職場での取り組みの実際、現在困っていることや今度の課題について、保護者との関係や感想といった内容であった（表13）。いずれも現場における実際の意見であり、さまざまかつ真剣な思いが多く述べられており、実態を認識するための機会を得ることができた。中でも「職員の共通理解」「教師間での意見交換」「みんなで見ようという体制」という内容を40人余りが答えており、職場内での情報の共有化が認識され、取り組まれていることがわかった。しかし、ここには子どもたちの情報を“妊娠期から就学期までに関連する専門家の関係”として「受け取る」という視点と「取り渡す」という視点の両

方をもっている場合がほとんど見られないことが明らかになった。

また、取り上げた意見以外についても、これらを賛否するのではなく、相互の職種を理解や認識を深め、職場の壁を越えた関係の構築を行うための、解決すべき明確な課題を示してくれるものと理解したい。

おわりに

本研究において、子どもの健康に関わる関係の実態から、関係をした経験はあるが、定期的で確実な関係がとられているところが少なく、取られていても何らかの課題を持っていることや、情報についても「受け取る」「取り渡す」という視点が不足していることがわかった。

これらのことから、関係のモデルの推進や関係システム構築、介入体制の確立が急務であることが示唆され、今年度の研究班の活動として、モデル地区での関係システム作りの導入や介入方法の確立を図りたい。

表1 回収状況 N=294

発送施設	発送数(人)	回収数 (施設別回収率%)	全回収率(%)
小学校	240	91 (37.9)	31.0
幼稚園	169	74 (43.8)	25.2
保育所(園)	161	61 (37.9)	20.7
病院・医院	71	17 (23.9)	5.8
助産所	13	8 (61.5)	2.7
保健センター	45	23 (64.4)	9.9
市役所・役場		6	
保健所	6	6 (100)	2.0
その他		4	1.4
記載なし		4	1.4
合計	705	294 (41.7)	100.0

表3 回答者の職種 N=291

	回答数(人)	(%)
養護教諭	74	25.4
保健師	32	11.0
保育士	57	19.6
助産師	21	7.2
看護師	9	3.1
幼稚園教諭	64	22.0
その他	19	6.5
小学校教諭	15	5.2
合計	291	100.0

表2 回答者の年齢構成 N=292

(*その他の教諭は幼稚園教諭を示す)

	助産師	保健師	看護師	養護教諭	その他の教諭*	保育士	その他	合計
20歳代	人(%) 0(0.0)	6(17.6)	0(0.0)	7(9.3)	1(1.3)	1(1.8)	1(5.3)	16(5.5)
30歳代	人(%) 3(14.3)	14(41.2)	0(0.0)	14(18.7)	7(9.0)	3(5.4)	2(10.5)	43(14.7)
40歳代	人(%) 6(28.6)	11(32.4)	6(66.7)	40(53.3)	12(15.4)	17(30.4)	0(0.0)	92(31.5)
50歳代	人(%) 9(42.9)	3(8.8)	3(33.3)	13(17.3)	56(71.8)	34(60.7)	13(68.4)	131(44.0)
60歳代	人(%) 3(14.3)	0(0.0)	0(0.0)	1(1.3)	2(2.6)	1(1.8)	2(10.5)	9(3.1)
70歳代	人(%) 0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(5.3)	1(0.3)
合計	人(%) 21(7.2)	34(11.6)	9(3.1)	75(25.7)	78(26.4)	56(19.2)	19(6.5)	292(100.0)

表4 関係を通して共有している内容 N=793

	助産師	保健師	看護師	養護教諭	その他の教諭*	保育士	その他	合計
子どもの発育・発達について	人(%) 16(26.7)	30(24.0)	6(22.2)	44(23.8)	52(26.4)	45(29.4)	11(23.9)	204(25.7)
気になる子ども(とその親)について	人(%) 12(20.0)	29(23.2)	5(18.5)	43(23.2)	51(25.9)	34(22.2)	12(26.1)	186(23.5)
子どもの家庭環境について	人(%) 12(20.0)	26(20.8)	6(22.2)	27(14.6)	32(16.2)	24(15.7)	7(15.2)	134(16.9)
子どもの疾患について	人(%) 12(20.0)	19(15.2)	7(25.9)	38(20.5)	28(14.2)	23(15.0)	7(15.2)	134(16.9)
気になることがあった子どもについて	人(%) 7(11.7)	19(15.2)	3(11.1)	28(15.1)	32(16.2)	24(15.7)	9(19.6)	122(15.4)
その他	人(%) 1(1.7)	2(1.6)	0(0.0)	5(2.7)	2(1.0)	3(2.0)	0(0.0)	13(1.6)
合計	人(%) 60(7.6)	125(15.8)	27(3.4)	185(23.3)	197(24.8)	153(19.3)	46(5.8)	793(100.0)

表5 関係の実施状況について N=589

	助産師	保健師	看護師	養護教諭	その他の教諭*	保育士	その他	合計
随時・不定期に実施	人(%) 7(18.4)	26(29.9)	7(36.8)	43(33.3)	53(33.8)	35(28.7)	13	184(21.4)
気になる子ども(や親)がいるとき	人(%) 11(28.9)	21(24.1)	4(21.1)	31(24.0)	47(29.9)	32(26.2)	8(21.6)	154(17.9)
問題が起こったとき	人(%) 8(21.1)	23(26.4)	6(31.6)	26(20.2)	27(17.2)	22(18.0)	7(18.9)	119(13.9)
定期的に実施	人(%) 6(15.8)	5(5.7)	1(5.3)	15(11.6)	17(10.8)	22(18.0)	2(5.4)	68(7.9)
行事や事業の後	人(%) 6(15.8)	11(12.6)	1(5.3)	11(8.5)	13(8.3)	7(5.7)	7(18.9)	56(6.5)
その他	人(%) 0(0.0)	1(1.1)	0(0.0)	3(2.3)	0(0.0)	4(3.3)	0(0.0)	8(0.9)
合計	人(%) 38(6.5)	87(14.8)	19(3.2)	129(21.9)	157(26.7)	122(20.7)	37(6.3)	589(100.0)

表6 関係の実施方法について N=427

	助産師	保健師	看護師	養護教諭	その他の教諭*	保育士	その他	合計
担当者が会い、口頭でのみ	人(%) 9(30.0)	21(31.3)	3(33.3)	41(44.6)	43(37.4)	31(35.2)	12(46.2)	160(37.5)
担当者の口頭と文書	人(%) 9(30.0)	21(31.3)	2(22.2)	14(15.2)	31(27.0)	20(22.7)	8(30.8)	105(24.6)
担当者会議と文書	人(%) 3(10.0)	12(17.9)	2(22.2)	17(18.5)	19(16.5)	14(15.9)	3(11.5)	70(16.4)
担当者会議のみ	人(%) 1(3.3)	6(9.0)	1(11.1)	9(9.8)	12(10.4)	11(12.5)	1(3.8)	41(9.6)

文書のみ	人(%)	3(10.0)	4(6.0)	1(11.1)	5(5.4)	7(6.1)	4(4.5)	2(7.7)	26(6.1)
その他	人(%)	5(16.7)	3(4.5)	0(0.0)	6(6.5)	3(2.6)	8(9.1)	0(0.0)	25(5.9)
合計	人(%)	30(7.0)	67(15.7)	9(2.1)	92(21.5)	115(26.9)	88(20.6)	26(6.1)	427(100.0)

表7 係がある職種について N=921

		助産師	保健師	看護師	養護教諭	その他の教諭*	保育士	その他	合計
医師	人(%)	6(10.9)	22(13.1)	6(17.1)	43(18.3)	30(14.3)	29(17.1)	6(12.5)	142(15.4)
保健師	人(%)	19(34.5)	18(10.7)	6(17.1)	29(12.3)	36(17.1)	15(8.8)	9(18.8)	132(14.3)
その他の教諭	人(%)	4(7.3)	10(6.0)	2(5.7)	37(15.7)	42(20.0)	19(11.2)	8(16.7)	122(13.2)
保育士	人(%)	1(1.8)	27(16.1)	7(20.0)	18(7.7)	26(12.4)	24(14.1)	6(12.5)	109(11.8)
栄養士	人(%)	2(3.6)	17(10.1)	6(17.1)	22(9.4)	12(5.7)	28(16.5)	4(8.3)	91(9.9)
臨床心理士	人(%)	1(1.8)	10(6.0)	2(5.7)	34(14.5)	23(11.0)	16(9.4)	3(6.3)	89(9.7)
養護教諭	人(%)	6(10.9)	19(11.3)	0(0.0)	26(11.1)	22(10.5)	10(5.9)	5(10.4)	88(9.6)
看護師	人(%)	4(7.3)	16(9.5)	3(8.6)	7(3.0)	5(2.4)	16(9.4)	3(6.3)	54(5.9)
助産師	人(%)	10(18.2)	18(10.7)	1(2.9)	3(1.3)	0(0.0)	3(1.8)	1(2.1)	36(3.9)
その他	人(%)	2(3.6)	11(6.5)	2(5.7)	16(6.8)	14(6.7)	10(5.9)	3(6.3)	58(6.3)
合計	人(%)	55(6.0)	168(18.2)	35(3.8)	235(25.5)	210(22.8)	170(18.5)	48(5.2)	921(100.0)

表8 職場内での係で主体となる職種について N=575

		助産師	保健師	看護師	養護教諭	その他の教諭*	保育士	その他	合計
園長・校長	人(%)	3(10.7)	1(2.3)	5(26.3)	38(27.0)	52(34.4)	46(31.3)	9(20.0)	154(26.8)
担任	人(%)	0(0.0)	2(4.5)	3(15.8)	40(28.4)	53(35.1)	21(14.3)	10(22.2)	129(22.4)
主任	人(%)	0(0.0)	2(4.5)	3(15.8)	8(5.7)	32(21.2)	27(18.4)	5(11.1)	77(13.4)
養護教諭	人(%)	1(3.6)	1(2.3)	0(0.0)	42(29.8)	9(6.0)	1(0.7)	2(4.4)	56(9.7)
保健師	人(%)	7(25.0)	31(70.5)	0(0.0)	1(0.7)	3(2.0)	9(6.1)	3(6.7)	54(9.4)
保育士	人(%)	0(0.0)	3(6.8)	3(15.8)	0(0.0)	1(0.7)	35(23.8)	2(4.4)	44(7.7)
看護師	人(%)	4(14.3)	4(9.1)	5(26.3)	0(0.0)	0(0.0)	5(3.4)	4(8.9)	22(3.8)
その他	人(%)	13(46.4)	0(0.0)	0(0.0)	12(8.5)	1(0.7)	3(2.0)	10(22.2)	39(6.8)
合計	人(%)	28(4.9)	44(7.7)	19(3.3)	141(24.5)	151(26.3)	147(25.6)	45(7.8)	575(100.0)

表9 日頃の業務のなかでの、係の必要性について N=246

	人 (%)
係の必要性を強く感じ今すぐ体制を整えたい	100 40.7
係の必要性を強く感じているが、方法がわからない。	15 6.1
連携の必要性を強く感じるが、の職種を知らず取り掛かりにくい	25 10.2
係があればいいと思うが、ないことで今困ることはない	31 12.6
係があればいいと思うが、方法がわからない	13 5.3
係があればいいと思うが、他職種を知らず取り掛かりにくい	14 5.7
今のところ必要性を全く感じない	2 0.8
その他	46 18.7
合計	246 100.0

表10 係をとりたいと思う職種について N=1056

		助産師	保健師	看護師	養護教諭	その他の教諭*	保育士	その他	合計
臨床心理士	人(%)	10(12.8)	20(10.8)	5(17.2)	62(21.5)	55(21.2)	24(14.1)	10(22.2)	186(17.6)
医師	人(%)	8(10.3)	22(11.8)	7(24.1)	56(19.4)	42(16.2)	32(18.8)	5(11.1)	172(16.3)
保健師	人(%)	16(20.5)	19(10.2)	4(13.8)	44(15.3)	40(15.4)	26(15.3)	8(17.8)	157(14.9)
栄養士	人(%)	7(9.0)	18(9.7)	3(10.3)	29(10.1)	27(10.4)	19(11.2)	3(6.7)	106(10.0)
養護教諭	人(%)	8(10.3)	23(12.4)	3(10.3)	19(6.6)	26(10.0)	13(7.6)	7(15.6)	99(9.4)
保育士	人(%)	7(9.0)	22(11.8)	3(10.3)	23(8.0)	24(9.2)	14(8.2)	3(6.7)	96(9.1)
その他の教諭*	人(%)	6(7.7)	19(10.2)	1(3.4)	21(7.3)	26(10.0)	16(9.4)	4(8.9)	93(8.8)
看護師	人(%)	5(6.4)	16(8.6)	1(3.4)	14(4.9)	12(4.6)	17(10.0)	3(6.7)	68(6.4)
助産師	人(%)	8(10.3)	20(10.8)	0(0.0)	14(4.9)	6(2.3)	3(1.8)	1(2.2)	52(4.9)
その他	人(%)	3(3.8)	7(3.8)	2(6.9)	6(2.1)	2(0.8)	6(3.5)	1(2.2)	27(2.6)
合計	人(%)	78(7.4)	186(17.6)	29(2.7)	288(27.3)	260(24.6)	170(16.1)	45(4.3)	1056(100.0)

表11 連携をしたいと思います施設について N=1273

		助産師	保健師	看護師	養護教諭	その他の教諭	保育士	その他	合計
児童相談所	人(%)	10(10.4)	20(10.5)	6(17.6)	57(18.0)	53(17.7)	42(16.7)	11(12.8)	199(15.6)
小学校	人(%)	10(10.4)	25(13.2)	4(11.8)	16(5.0)	53(17.7)	43(17.1)	12(14.0)	163(12.8)
保健センター	人(%)	13(13.5)	10(5.3)	5(14.7)	39(12.3)	33(11.0)	32(12.7)	9(10.5)	141(11.1)
保育所(園)	人(%)	9(9.4)	22(11.6)	2(5.9)	26(8.2)	34(11.4)	23(9.2)	11(12.8)	127(10.0)
病院・医院	人(%)	8(8.3)	21(11.1)	5(14.7)	43(13.6)	28(9.4)	19(7.6)	4(4.7)	128(10.1)
教育委員会	人(%)	7(7.3)	24(12.6)	2(5.9)	26(8.2)	28(9.4)	20(8.0)	14(16.3)	121(9.5)
保健所	人(%)	10(10.4)	17(8.9)	2(5.9)	39(12.3)	25(8.4)	23(9.2)	5(5.8)	121(9.5)
幼稚園	人(%)	9(9.4)	19(10.0)	1(2.9)	32(10.1)	15(5.0)	27(10.8)	8(9.3)	111(8.7)
市役所・役場	人(%)	9(9.4)	8(4.2)	5(14.7)	15(4.7)	17(5.7)	15(6.0)	6(7.0)	75(5.9)
大学	人(%)	3(3.1)	6(3.2)	1(2.9)	13(4.1)	10(3.3)	4(1.6)	4(4.7)	41(3.2)
助産所・産院	人(%)	6(6.3)	12(6.3)	0(0.0)	7(2.0)	2(0.7)	2(0.8)	1(1.2)	30(2.4)
その他	人(%)	2(2.1)	6(3.2)	1(2.9)	4(1.3)	1(0.3)	1(0.4)	1(1.2)	16(1.3)
合計	人(%)	96(7.5)	190(14.9)	34(2.7)	317(24.9)	299(23.5)	251(19.7)	86(6.8)	1273(100.0)

表12 気になる子について(上位3項目) N=720

		助産師	保健師	看護師	養護教諭	その他の教諭	保育士	その他	合計
遊ばない・遊べない・ 他児と一緒に遊べない	人(%)	14(17.9)	2(4.4)	3(14.3)	32(18.5)	39(18.1)	28(19.7)	6(13.3)	124(17.2)
生活リズム乱れている	人(%)	7(9.0)	7(15.6)	6(28.6)	28(16.2)	34(15.7)	18(12.7)	8(17.8)	108(15.0)
ことばが遅れている・ 言葉が不明瞭	人(%)	13(16.7)	6(13.3)	3(14.3)	5(2.9)	37(17.1)	20(14.1)	5(11.1)	89(12.4)
大人の目を気にして行 動する	人(%)	7(9.0)	4(8.9)	2(9.5)	11(6.4)	18(8.3)	14(9.9)	3(6.7)	59(8.2)
こだわりが強い	人(%)	10(12.8)	1(2.2)	0(0.0)	12(6.9)	19(8.8)	15(10.6)	2(4.4)	59(8.2)
子どもらしくない発言	人(%)	4(5.1)	1(2.2)	0(0.0)	10(5.8)	16(7.4)	6(4.2)	5(11.1)	42(5.8)
乱暴	人(%)	4(5.1)	0(0.0)	0(0.0)	12(6.9)	16(7.4)	6(4.2)	2(4.4)	40(5.6)
じっとしない	人(%)	5(6.4)	2(4.4)	0(0.0)	4(2.3)	18(8.3)	10(7.0)	0(0.0)	39(5.4)
その他	人(%)	3(3.8)	9(20.0)	1(4.8)	15(8.7)	1(0.5)	4(2.8)	0(0.0)	33(4.6)
肥満	人(%)	1(1.3)	1(2.2)	0(0.0)	19(11.0)	4(1.9)	2(1.4)	4(8.9)	31(4.3)
身長・体重が標準より 小さい	人(%)	4(5.1)	6(13.3)	3(14.3)	8(4.6)	0(0.0)	4(2.8)	2(4.4)	27(3.8)
テレビ(ビデオ)を視聴 する時間が長い	人(%)	2(2.6)	3(6.7)	1(4.8)	2(1.2)	2(0.9)	4(2.8)	2(4.4)	16(2.2)
チックが出る	人(%)	2(2.6)	0(0.0)	1(4.8)	5(2.9)	4(1.9)	3(2.1)	0(0.0)	15(2.1)
ケガが多い	人(%)	2(2.6)	3(6.7)	1(4.8)	7(4.0)	1(0.5)	1(0.7)	0(0.0)	15(2.1)
落ち着いて食べない	人(%)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.6)	4(1.9)	4(2.8)	5(11.1)	14(1.9)
好き嫌いが多い	人(%)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(1.2)	1(0.5)	3(2.1)	0(0.0)	6(0.8)
赤ちゃんがえり	人(%)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.5)	0(0.0)	1(2.2)	2(0.3)
オムツがはずれない	人(%)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.5)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.1)
合計	人(%)	78(10.8)	45(6.3)	21(2.9)	173(24.0)	216(30.0)	142(19.7)	45(6.3)	720(100.0)

表13 連係・気になる子への自由意見(一部抜粋)

- ・子ども担当保健師だけでケースを抱えこまず、係で共有しかかわりについて検討している。
- ・健診前後にミーティングをして気になる子、気になることを話している。ただ母親が特に心配していない場合は介入しにくい。
- ・いろんな職種の人との連係は考え方が違うので、長いつきあいの中で、コミュニケーションをとりながら深めてゆく事が大切。
- ・職員全員で共通理解し、情報交換を密にすること。職場内で一人でかかえこむことなくみんなで相談し、よい方

向に向かえるようにしている。

- ・ 毎日終わりの会で児童の様子について情報交換を行っている月に一度「会」を開き各学年の気になる子について話し合っている。
- ・ 保健師さんとのつながり、児相とのつながりで必要に応じて子どもの支援をしている担任の教師だけでなく、他の教師職員がみんなに関わるようにしている。
- ・ 学級の問題としてだけでなく、学校の問題として、関係者が寄って話し合いをしながらすすめたり、事例検討として全教員で協議したり研修する。

問6. あなたの職場で関係の主体となる人は誰ですか? 主体となる職種をすべて選択してください。

- | | | |
|----------|------------|---------|
| 1. 保健師 | 2. 看護師 | 3. 養護教諭 |
| 4. 保育士 | 5. 担任 | 6. 主任 |
| 7. 園長・校長 | 8. その他 () | |

問7. 日頃の業務の中で、関係の必要性を感じますか? とくに、あてはまるものを1つ選択してください。

- | | |
|--|---|
| 1. 関係の必要性を強く感じており、今すぐ体制を整えた | 2. 関係の必要性を強く感じているが、方法が分からない。 |
| 3. 関係の必要性を強く感じているが、他の職種と顔見知りではないので、とりかかりにくい。 | 4. 関係があればいいと思うが、ないことで今困ることではない。 |
| 5. 関係があればいいと思うが、方法が分からない。 | 6. 関係があればいいと思うが、他の職種と顔見知りではないので、とりかかりにくい。 |
| 7. 今のところ関係の必要性を全く感じない。 | 8. その他 [] |

問8. これからどのような職種と関係があるとよいと思いますか? あなたが連絡をとりたいと思う職種をすべて選択してください。

- | | | |
|-------------|---------|-----------|
| 1. 助産師 | 2. 保健師 | 3. 看護師 |
| 4. 医師 | 5. 養護教諭 | 6. その他の教諭 |
| 7. 保育士 | 8. 栄養士 | 9. 臨床心理士 |
| 10. その他 () | | |

問8. あなたはどのような施設と連携(=共同して何かを一緒に行なうこと)したいと思いますか? あなたが連携をとりたいと思う施設をすべて選択してください。

- | | | |
|-----------|-----------|-------------|
| 1. 小学校 | 2. 幼稚園 | 3. 保育所(園) |
| 4. 助産所・産院 | 5. 病院・医院 | 6. 保健センター |
| 7. 保健所 | 8. 市役所・役場 | 9. 教育委員会 |
| 10. 児童相談所 | 11. 大学 | 12. その他 () |

問10. 日頃の業務の中で「気になる子」はいますか?

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問11. あなたにとって「気になる子」それはどういう子どもさんですか? 以下の選択肢から、あなたのお考えや感じているものに近いものを優先順に3つ選んでください。

- | | | |
|-------------------------|------------------|--------|
| 1番 () | 2番 () | 3番 () |
| 1. 身長・体重が標準より小さい | 2. 肥満 | |
| 3. ことばが遅れている・ことばが不明瞭 | 4. 子どもらしくない言動 | |
| 5. 生活リズムがみだれている | 6. こだわりが強い | |
| 7. テレビ(ビデオ)を長時間視聴している | 8. 大人の目を気にして行動する | |
| 9. 遊ばない・遊べない・他児と一緒に遊べない | 10. チックがでる | |
| 11. 乱暴 | 12. じっとしない | |
| 13. 赤ちゃんがえり | 14. 好き嫌いが多い | |
| 15. 落ち着いて食べない・遊び食べ | 16. ケガが多い | |
| 17. オムツがはずれない | 18. その他 () | |

問12. 最後に「関係」や「気になる子」について、皆さんの職場で工夫されていることやお困りになっていることなどご意見をお聞かせください。

[]

設問はこれでおわりです。ご協力ありがとうございました。

周産期から就学期にかけての情報連係システム構築に関する研究

～5者連係のあり方に関する研修会からの知見～

下園 美保子	下市町保健センター
山口 智佳子	奈良教育大学附属幼稚園
小松原かおり	京都教育大学附属幼稚園
安田 梓	大阪市立幼稚園
河合 三奈子	八幡市立八幡第五小学校
山野 恵美子	奈良文化女子短期大学
松浦 賢長	福岡県立大学看護学部地域・国際看護学講座
山縣 然太郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座

健やか親子21の目指すところを追求するためには、既存の垣根をこえた縦断的な連携が必要となってくる。そこで今回、妊娠・出産期から地域へ、地域から保育所（園）・幼稚園へ、保育所（園）・幼稚園から小学校へという縦断的な連携について、乳幼児期の健康支援という点に着眼し、これらに関わる専門職「助産師」「保健師」「保育士」「幼稚園教諭（養護教諭含む）」「小学校養護教諭」の5者連係をスムーズに図ることの出来る体制づくりに必要なことは何かを明確にすることを目的に、「幼児期健康支援担当者研修会」を実施し、「気になる子」の支援をテーマにグループワークを行い、そこから各関係機関の連携意識の現況把握、連携するにあたっての意識とは何か、連携するにあたって習得しておくスキルを把握した。そこから研修会の意義、研修会等を行う際の心得と研修実施のノウハウをそれぞれ5か条にまとめ、また、それらの取得する為の研修会の体系的習得プログラムを考察した。

【研修会を行うにあたっての心得】①悩む前に原点・仮説に戻る。②研修会で何を明確にしたいのかをはっきりと。③他職種間で使っている言葉の意味を整理する。④連携キーパーソンは市区町村保健師が適任。でも立ち上げの際は職種にとらわれない。⑤上司の理解を得る為には活動の報告から。【研修会実施のノウハウ】①研修会ではそこで得た知識や情報を現場で使えるように加工できるようにするのが大切。②あらゆる職種が参加するからこそ、事前に共通テーマを探し出す。③職種間の違いは、『得意』分野の明確化で図る。④後援・協賛をとることは、意識向上を図りたい職域では最重要。⑤研修会は開催し、共通のテーマで情報交換することが大切。出来る方法で実施しよう。【研修会の体系的習得プログラム事業計画】同職種→最も近い職種間（2者）→5者と、段階的に連係の幅を広げて研修会をカリキュラム化していくことで、関係機関の目的の共有化と意識向上が図りやすく、実際連係体制を整える際も具現化しやすいのではないかと考える。

I. 研究の目的

健やか親子21の目指すところを追求するためには、既存の垣根をこえた各分野の縦断的な連係が必要となってくる。健やかな親子の後ろ盾となるには、対象の所属する場に限定して考えるのではなく、トータルなものとして考える必要がある。

昨年の地域保健と学校保健の連係構築を目的とした『地域保健及び学校保健担当者合同研修会』において、妊娠出産から就学までの情報連係を構築する必要性の考察から、今年度は、妊娠・

出産期から地域へ、地域から保育所（園）・幼稚園へ、保育所（園）・幼稚園から小学校へという縦断的な連係について、乳幼児期の健康支援という点に着眼し、これらに関わる専門職「助産師」「保健師」「保育士」「幼稚園教諭（養護教諭含む）」「小学校養護教諭」の5者連係をスムーズに図ることの出来る体制づくりに必要なことは何かを明確にすることを目的とする。

本研究では、これら5者における情報連係の現状や意識向上を図ることを目的とした研修会

「幼児期健康支援担当者研修会」を実施する。そこで「気になる子」の支援をテーマにグループワークを行い、各機関の連係意識の現況把握、連係するにあたっての意識とは何か、連係するにあたって習得しておくスキルを把握することで、研修会の意義、研修会等を行う際の心得と研修実施のノウハウをそれぞれ5か条にまとめた。又、連係意識の向上と連係に必要なスキルを取得する為の研修プログラムを考察したので報告する。

II. 研究の方法

今年度は妊娠出産から就学までに関わるであろう関係職種、「助産師」「保健師」「保育所(園)の保健師看護師」「保育士」「幼稚園教諭、養護教諭」「小学校養護教諭」の5者における情報連係の現状や意識向上を図ることを目的とした研修会「幼児期健康支援担当者研修会」を実施した。

研修会では、「気になる子」の支援をテーマとし、それぞれの現場にある具体的事例をから、『気になる子の対応』『現在の連係状況』をテーマにグループワークを行った。その内容を『連係意識の有無』『連係に必要な意識』『連係に必要なスキル』の枠組みでまとめた。

III. 結果

グループワークを別紙1にまとめる。

1、連係意識の有無

- ①幼稚園・地域保健は、問題がある可能性のある児(グレー児)・すでの問題が表面化している児(病児)共に連係意識がある。
- ②その他の機関は、病児には連係意識があるものの、グレー児には意識があるとは考えにくい。
- ③連係意識の高くない機関は、連係先を医療機関など、問題解決に直接に関わる機関に求めている傾向にある。

2、連係に必要な意識

- ①『目の前にいる子どもの未来の為に支援をする』という意識
- ②『子どもを支援していく際の情報は、子どもを支援していく機関に提供して、共同で支援体制を整えることが大切であり、その為にも、児及び家庭に問題がある・なしに関わらず、すべての子どもがその対象である』という

意識

- ③『それぞれが情報の送り手であり、受け手である』という意識

3、連係に必要なスキル

- ①全体像・各種関係機関から、お互いの職種の得意分野と不得意分野を明確にする。
- ②子どもの支援にとって、取り交わさなければならない情報が何かを共通理解する。
- ③各機関で各団体の代表が集まる会議等で、子育て支援にかかわる職域の代表も出席していただき、子育て支援に連係が必要であるという理念を、各種報告を通じて理解してもらう。

IV. 考察

【研修会の意義】

- 1、幼稚園及び地域保健の連係意識が高いのは、昨年度連係に関する研修会をした事も大きく関与しているのではないかと考える。これらから、研修会等でそれぞれの職務内容や思いを情報交換することが、連係意識向上の第1歩である可能性を示唆しているのではないかと考える。
- 2、研修会等を重ねていくと、徐々に他職種のいる研修会に参加することに『抵抗感がなくなる』、同じテーマについて違う立場で『会話することが出来るようになる』という、いわゆるその場に『慣れ』てくることは経験的に理解できる。この『慣れ』『抵抗感がない』という状態こそが、他職種との垣根を越え始め、情報連係体制が確立しつつあることを示唆しているのではないかと考える。

【研修会を行うにあたっての心得】

- 1、悩む前に原点・仮説に戻る。
途中で分からなくなったら原点・仮説に戻る。
- 2、研修会で何を明確にしたいのかをはっきりと。
この研修会で何を明確にしたいのか、テーマを絞り込み、スタッフ全員が十分に理解しておく。
- 3、職種間で使っている言葉の意味を整理する。
同じような言葉を使っても違う意味を持つ言葉、違う言葉だけれども実は同じ意味の言葉、言われても分からない言葉があ

るため、それらをきちんと整理することで、お互いの理解は更に深まる。

- 4、 関係キーパーソンは市区町村保健師が適任。
でも立ち上げの際は職種にとらわれない。
すべての職種を知っていて連絡が取りやすい立場である保健師が、キーパーソンとして研修会を実施していくのが良いと考える。
しかし、初めに関係をスタートさせる際は、職種にとらわれることなく、必要性を十分に理解している人が発起人となって研修会等を実施するほうがよい。
- 5、 上司の理解を得る為には、活動の報告から。
各機関で各団体の代表が集まる会議等で、子育て支援にかかわる職域の代表も委員に入っただき、子育て支援に関係が必要であるという理念を、各種報告を通じて理解してもらう。

【研修会実施のノウハウ】

- 1、 研修会では、そこで得た知識や情報を現場で使えるように加工できるようにするのが大切。
研修会で得た知識や情報を、それぞれの職域でどう活用するかを確認できる時間を研修会のスケジュールの中で確保する。
- 2、 あらゆる職種が参加するからこそ、事前に共通テーマを探し出す。
研修会のテーマのポイントを絞るためにも、事前アンケート等で共通テーマを探し出す。
- 3、 職種間の違いは、『得意』分野の明確化で図る。
職種間の違いを明確にする際、『出来る』ことを引き出すより、『得意』なことを引き出すようにする方が、より現実的で、その後の関係体制を確立しやすい。なぜなら、職域的に可能であっても、今現在実施していない事項もあるから、実際体制を確立する際に、手間取る可能性が高いためである。
- 4、 後援・協賛をとることは、意識向上を図りたい職域では最重要。
参加者確保の為にも、根回しはしっかりと行う。意識向上を図りたい職域の場合は特に重要で、その際は県レベルの各職種組織の後援・協賛をもらっておくよい。
- 5、 研修会は、開催し共通のテーマで情報交換することが大切。出来る方法で実施しよう。

研修会の理解を得にくい場合は、目的をケースカンファレンスや計画見直し等に置く方法もある。意識の低い職種でも、この目的だと研修会の意義を理解してもらいやすい。まずどんな形でも研修会を実施し、そこから定期的な関係会議と位置付けるように進めていくほう実施しやすい。

【研修プログラム】

この研修プログラムは、関係意識の向上と関係に必要なスキルを取得することを目的とする。研修会をプログラム化することで、関係機関の目的の共有化と意識向上が図りやすく、実際関係体制を整える際も具現化しやすいのではないかと考える。

対象者は、①同職種→②最も近い職種間（2者）→③5者の順で、段階的に関係の幅を広げる。
＜プログラム＞

- 1、 同職種
- 2、 二者関係

【第一段階】

目的 関係必要という意識のモチベーションの共有・共通理解
内容 互いの職務内容の把握・日常業務での悩み等の情報交換の実施

【第二段階】

目的 関係体系の具現化
内容 具体的な関係のイメージを探り、それらを各関係機関と共有する。

- 3、 5者関係

【第一段階】

目的 関係必要という意識のモチベーションの共有・共通理解
内容 互いの職務内容の把握・日常業務での悩み等の情報交換の実施

【第二段階】

目的 関係体系の具現化
内容 具体的な関係のイメージを探り、それらを各関係機関と共有する。

【第三段階】

目的 必要資源を明確にする。
内容 資源がない場合は、どうすればいいかを理解でき、研修会が終わった時に何をすれば

いいかを具体的にイメージできる。

尚、同時に研修会終了後にも情報交換が出来るよう、ホームページ等の場の設定が必要であると考ええる。

V. まとめ

乳幼児期の健康支援を考える上で重要なことは、子どもは時間とともに成長するということである。つまり、乳幼児期の関係には二側面がある。ひとつは今問題が生じた時に、それぞれ関係している機関と関係する横の関係（横断関係）。もうひとつは成長に合わせて情報を提供し、時系列的に関係機関と関係する縦の関係（縦断関係）である。

今回は、後者の縦断関係についての意識・スキルの向上と、それらを習得しモチベーションを統一する具体的方法として研修会を活用した。

今後は、研修会が縦断関係にどこまで効果があるのかを検討すると共に、この研修プログラムを全国各地で展開し、関係意識の向上とスキルを習得することによる乳幼児期健康支援体制を整える環境を整備していくことが重要であると考ええる。

VI. 参考文献

- 1) 山口智佳子、他：幼稚園養護教諭と地域保健師の連携モデル開発に関する研究～入園後健診と3歳児健診健診を題材に～、厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書、2004年
- 2) 森川美保子、他：幼児期における地域保健と学校保健の連携構築に関する研究～地域保健と学校保健合同研修会報告に関する評価～、厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書、2004年

① 「気になる子ども」についての対応について

気になる子どもの対応はどのように行っているか。職員の中でどこまで共有しているか

記録は何にしているか・記録はどのように保存しているか・保存期間 など

	妊娠・出産期 担当者	地域保健 担当者	保育園所 保健担当者	幼稚園養護教諭	小学校養護教諭
実態	<ul style="list-style-type: none"> たとえばうつで内服している母については地域に連絡。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達と生活習慣 親自身が遊べない。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任は広くクラスをみないといけないので加配の先生や保健担当者がその子をみないといけない状況。 発達の節目節目に「その子の発達障害なのか」「養育環境なのか」と迷う 連係役との連絡すら時間がかかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 気になる子どもがいても保護者からの情報のみになってしまう。 人にくっついていないといけない子がいる。 気になる子どもがいるけど、気になる親も増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別学級に入ることに親になかなか受け入れてもらえない。結局子どもがあがるにつれて子どもはどんどんしんどくなってきている。 20年前から「保健室」への来室が変わった。 なんでこんなに急激に子どもの様子かわるのか？ 家庭においての子育てそのものが変わってきた？ 虐待のケースが増えている。 親に指導するということで講演会等を企画するが、聴いてほしい人ほど残ってくれない。
課題		<ul style="list-style-type: none"> ネグレクトとを感じるのに他部所と連絡がとれない。 どう連係をとったらいのか分からない 	<ul style="list-style-type: none"> 親子関係に由来するものが大きいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達の問題なのか、性格なのか迷う。 	<ul style="list-style-type: none"> 親へのかかわりが難しい。
要望			<ul style="list-style-type: none"> 医療機関と連携したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健センターからの情報がもう少しあればと思う 	
対応		<ul style="list-style-type: none"> 健診時に気になる子どもは発達相談にかけている。 3歳半健診だと4歳時に連絡したりしている。 病院から連 		<ul style="list-style-type: none"> 気になる子については、要請すれば教育委員会から専門家がきてくれる。 保護者に話をきくことも大事。 子どもが居心 	<ul style="list-style-type: none"> ケース会議をしている。 暗闇が怖い、人を触ってないと不安な子がいる。保護者との関わりで徐々にいい方向に向いている。 担任と役割を分担する。

		<p>絡があった人 に関しては訪 問なり連絡に つなげてい る。</p>		<p>地がよいと思え る環境をつく る。</p>	<p>・子どもが居心地がよい 状況を作ってあげること が一番。</p>
<p>スキ ル</p>				<p>・小学校にあが る時に「困るだ ろうな」とか 「アレ？」と感 じることができ るようになった。</p>	

② 幼児期の具体的な連携方法について

現在連携状況はどうか？

今後のどのようなところと連携していきたいか。

など

妊娠・出産期担当者	地域保健担当者	保育園所保健担当者	幼稚園養護教諭	小学校養護教諭
	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師は調整・連携役なので、いろんなところと連携しやすい立場にある。 ・地域に潜んでいる事実を強く言うてはどう？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの愛情はそそぐけれども、親との関係がとれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センターから健診の結果等情報がほしい。 ・私立や附属は地域との接点がないので、話すらできない。 ・機関を作るより、よい関係を他職種と作るほうが大切。互いの足を運んで、顔見知りになることが基本。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織としての取り組みがいったん職務になると、とても連携しやすい。 ・校長がキーパーソン ・専門家・カウンセラー・精神科医師と誰がつなげるかが課題。

幼児期健康支援担当者の関係に向けたホームページの運営・利用状況に関する研究

山口 智佳子	奈良教育大学附属幼稚園
小松原かおり	京都教育大学附属幼稚園
安田 梓	大阪市立幼稚園
河合 三奈子	八幡市立八幡第五小学校
松浦 賢長	福岡県立大学看護学部地域・国際看護学講座
山縣然太郎	山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座

前年度まで継続されていた厚生科学研究山縣班の研究において、2003年10月に、幼稚園養護教諭の同職種内の連携をめざしたホームページを開設した。

今年度は「関係＝人と人のつながり」と定義し、幼児期にすべき健康支援を考えていくため、他職種との関係を視野に入れたホームページのリニューアルや他職種との関係を充実させていくためには、まずは同職種の関係を強化することと考え、一歩先をみてさらにホームページが充実するよう内容を検討し運営した。「お役立ちイラスト集」「実名参加の掲示板（EX-BBS）」のページを新たに加えた。掲示板&情報交換会のページとお役立ちイラスト集のページのアクセス数が、他のコンテンツに比べ著しくアクセスを伸ばしている。また、掲示板の参加は保育園看護師・幼保一元化の施設の養護教諭・看護師免許で保育園幼稚園に採用された人・看護師免許で臨時の幼稚園養護教諭・小学校養護教諭・中学校養護教諭と、同職種ばかりでなく他職種の参加も増えてきた。

今後は、幼稚園養護教諭の同職種内の横の関係はもちろんのこと、子どもが生まれてから就学までを考える幼児期健康支援担当者である他職種との縦の関係も視野にいれたホームページの内容を考えていく必要があると考える。幼児期健康支援担当者関係に必要な10か条を以下のごとくまとめてみた。

1. 互いの職務内容を知る 個人差レベルではなく職務差での話し合いをする
2. つねに揺さぶりをかける情報の提言をする
3. 子どもたちのために取り交わすべき情報関係を考える
4. 情報の送り手であり受けてであるという意識をもつ
5. 他職種との関係を強化するために同職種での関係もしっかりと
6. 情報を入手しやすい情報環境整備（ホームページで最新情報をアップする）
7. マスコミや専門誌への広報活動
8. すべてのこどもの情報関係ができるシステム構築
9. 「関係」から「連携」につながる研修会及び担当者会の実施
10. すべての子どもたちの未来につながる関係であることを忘れずに

I. 研究の目的

前年度まで継続されていた厚生科学研究山縣班の研究において、全国に点在する幼稚園養護教諭は、職務を確立していくにあたって同じ職種と全国的に連携していくことを望んでいるのかについてのニーズ調査を行った。その結果、幼稚園養護教諭を対象とした研修会・研究会や情報交換の機会が望まれていることが明らかになった。そこで2003年10月に、幼稚園養護教諭の同職種内の連携をめざしたホームページを開設し、

その運営・利用状況を把握した。

子どもたちの心身を健やかなものにするためには、「すこやか親子21」に示されているように、小児の健康に関わる様々な専門家の確かな関係（人と人のつながり）が必要になってくる。

そこで今年度は、幼児期にすべき健康支援を考えていくため他職種との関係を視野に入れ、ホームページのリニューアルや他職種との関係を充実させていくためには、まずは同職種の関係を強化することと考え、

以上のことを踏まえたホームページ運営と状況の把握をしていくことにした。

II. 研究の方法

1. ホームページの運営状況

yoyoproject 幼稚園の養護教諭のホームページ (<http://www.eonet.ne.jp/~yoyoproject-2003/>) を2003年10月より公開している。開設1年目をリニューアルの起点とし、研究のテーマが変わったことを知らせること、リニューアルすることで利用意欲をかきたてること、見やすく使いやすいものにする、利用する側の声をひろいあげることなどを目的としリニューアルの構想をたてた(表1)。検討・利用しやすいコンテンツ、活用したいコンテンツを重点的にリニューアルし(表2)、ホームページの運営を行った。新たなコンテンツとしては、保健だよりや掲示物に活用できる実務に必要な「お役立ちイラスト集」、より具体的な事例の情報交換をすることを目的に、写真も添付できる機能を付け加えた「実名参加の掲示板(E X-B B S)」などがある。

ホームページの更新は月1~2回のペースで、必要に応じて行っている。更新内容はホームページ内のWhat's New!に、更新履歴および最新情報として記録している。

今年度は、ホームページ上でも他職種との関係を考慮し、トップページに他職種の参加を呼びかけるメッセージを入れた。また、健康雑誌へのPR記事や本研究班主催の研修会において、参加者にPRカードを配布するなどした。

2. ホームページの利用状況の把握

利用状況を把握するための指標として、アクセス数を週1回記録している。昨年度はトップページにしかカウンターを設置できないシステムだったが、システム変更に伴い、今年度は各ページにカウンターを設け、それぞれのコンテンツについて利用状況を把握するようになった。

yoyoclub掲示板の内容は20件ごとに保存し、管理者が過去ログとして管理している。

III. 利用状況の結果

トップページのアクセス状況を見ると、1日に平均15件ほどのアクセスがある。図1にyoyoproject幼稚園における養護教諭ホームページ、トップページへのアクセス数の推移を示した。今年度2004年10月1日に

リニューアルした後、2週間後で4,351件、1ヶ月後で4,596件、2ヶ月後で5,099件、3ヶ月後で5,528件、4ヶ月後で6,204件となっており、1ヶ月に約500件のアクセスがあることが分かった。特に「お役立ちイラスト集」をアップした11月から、アクセス数が伸び始めている。

リニューアル4ヶ月半後の各コンテンツのアクセス状況を図2に示した。掲示板&情報交換会のページのアクセス数が1,536件と最も多く、その中に含まれているお役立ちイラスト集のアクセス数が1,074件と著しく多かった。

図3は、各コンテンツのアクセス数の推移を示している。これを見ても、掲示板&情報交換会のページとお役立ちイラスト集のページが、他のコンテンツに比べ著しくアクセス数を伸ばしていることが分かる。

yoyoclub掲示板への投稿件数は、ホームページ開設から2005年2月23日現在で400件を越えた。投稿者も51名にのぼり、今年度は幼稚園の養護教諭11名・幼稚園の保健職員3名・保育園看護師1名・幼保一元化の施設の養護教諭1名・看護師免許で保育園幼稚園に採用された人1名・看護師免許で臨時的幼稚園養護教諭として採用された人1名・小学校養護教諭1名・中学校養護教諭1名・学生2名が新しく参加している。

実名参加の掲示板(E X-B B S)への参加申し込み者は、幼稚園養護教諭6名・幼稚園保健職員1名・中学校養護教諭1名であった。こちら8名の申し込み者へは参加認証確認のためのIDとパスワードを配布しており、そのうち実際に投稿してきた人は1名であった。

IV. まとめ

ホームページ開設から2年目を迎え、ホームページへのアクセス数も更に増えてきた。幼稚園養護教諭のホームページは他にはなく、このホームページに情報を求めている意識が高いと推測できる。

保健だよりや掲示物に活用できる「お役立ちイラスト集」をアップしたことで、実務に使えるコンテンツとしてアクセス数が伸びたものと思われる。

開設当初から、yoyoclub掲示板を立ち上げて情報交流の場としており、投稿件数も400件を越えてきた。投稿件数よりアクセス数が増えているのは、投稿は行わなくても掲示板を閲覧し、情報を得ている人が多いことをうかがわせる。また、PRの効果もあって他職種の投稿も増えてきており、今後、幼児期の健康支援担当者同士で、縦の関係を視野に入れた情報交流が期待される。